

展示場へ行こう!

3F

人が作るにおい

「展示の名前が良くない」、といわれたことがあります。まあ、無臭志向の日本では、何となく、嫌われてしまう体臭などを想像させてしまう展示名になってしまいました…。もともとは、人が化学反応をおこして人工的に作った香料を紹介しようと、このような名前をつけたのですが…。さて、食品や化粧品などには欠かせない香料。現在天然香料は、約1500種類で実際に利用されるのは、100種程度、合成香料については、約5000種類くらいあるといわれています。その中で世界中で取引されている一般的な合成香料が500種類あり、約320種類ほどの香料が日本で作られ、世界に販売されているそうです。

化学実験をしたことがある方ならご存知かと思いますが、実験をしている時は、さまざまなにおいをかぐことができます。まさに化学は匂いであり、匂いは化学なのです。

ちなみに、世界で最初に合成された「香料」と呼べるものは、1688年にパーキンという化学者が作ったクマリンという物質です。パーキンは、世界で最初の合成染料を作ったことでも名を上げた人ですが、香料についても、合成の1番のりを果たしています。ちなみにクマリン、サクラの葉っぱのような香りがします。以前は、食品添加物としても使われて、香り付けに利用されていましたが、毒性がある(高い)ということで、食べ物には添加が認められていませんが石鹼などには使われます。また、桜の葉の香り、と書きましたが、まさに、サクラの葉や桃の花・葉にも含まれています。

この展示では、大阪市に本社がある稲畑香料株式会社の協力を仰ぎ、さまざまな人工香料を展示しています。ピンは同じものですが、中身は本物が入っています。とはいっても、見た目が同じなので、見せ方は、今後改善が必要と痛感しています。

それから、においというと、何かあまり良くない印象をもたれるので、展示の名前を「人が作る香り」としておけばよかったな、と思います。

小野 昌弘(科学館学芸員)



「人が作るにおい」
右奥が一番人気のバニラの香り、「バニリン」